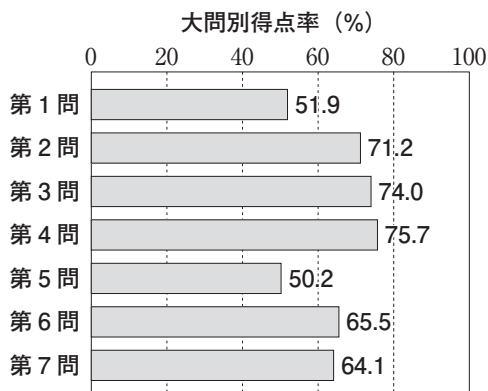
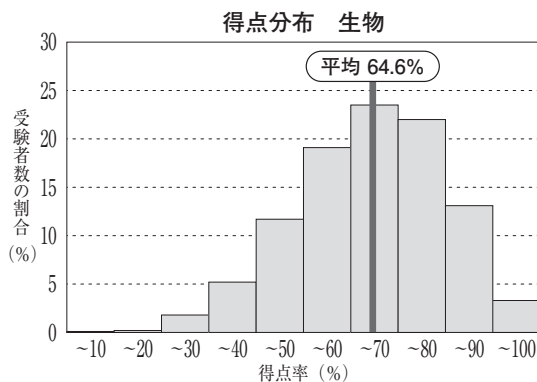


生 物

教科書の知識に抜けがないか確認しよう。

I. 全体講評

最終 12月センター試験本番レベル模試生物の平均点は 64.6 点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター試験に準じた形をとり、第 1 問は生命現象と物質、第 2 問は生殖と発生、第 3 問は生物の環境応答、第 4 問は生態と環境、第 5 問は生物の進化と系統とした。分野に偏りがないよう、教科書全体からまんべんなく出題している。また、第 6 問と第 7 問は生物の範囲から選択問題として出題した。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしよう。



II. 大問別分析

今回出題した選択問題では、第 6 問と第 7 問の得点率はほぼ同じだった。どちらの問題を選択するかも重要になるので、苦手分野をなくしよう。

第 1 問 生命現象と物質

DNA の複製、呼吸・発酵の過程と ATP 生成について整理しよう。

A は DNA の構造と複製に関する問題で、問 1 はよくできていた。B は呼吸・発酵と ATP 生成に関する計算問題も含めた出題だった。

DNA の複製に関しては、DNA の方向性と複製のしくみについて確認しよう。酵母菌に関しては、呼吸と発酵の化学反応式を同時に扱う様々な出題があるのでもう一度復習しておくとうい。

第 2 問 生殖と発生

動物の初期発生および被子植物の花の形成に関する知識を整理しよう。

A はカエルの発生過程に関する知識問題で、B は被子植物の花の形成に関する遺伝も含めた出題で、問 6 の正答率は 64.6% であった。

両生類の初期発生については、卵割および灰色三日月（環）に関する知識を再確認しよう。B で得点が伸びなかった受験者は、ABC モデルのしくみについてよく復習しよう。

第 3 問 生物の環境応答

種子の発芽、光受容物質および耳と聴覚に関する知識を確認しよう。

A は植物、B は動物の環境応答に関する知識問題およびグラフの読み取り問題であった。記憶すべき事項の多い分野であるが、知識に抜けがないか、よく確認しよう。

第4問 生態と環境

生態系における物質収支について理解を深めよう。

Aは個体群間の相互関係（種間関係）に関する考察問題で、よくできていた。Bは生態系における生産者の物質収支に関する問題であったが、消費者の物質収支も含め確認をしておこう。

第5問 生物の進化と系統

3ドメインおよび進化のしくみに関する知識を整理しておこう。

Aは生物の系統に関する問題で、各ドメインに属する生物の特徴や生物例を含めた出題であった。Bは進化のしくみに関する出題で、問6は文章を読み取る問題であった。

学習が遅れがちな分野なので、教科書を読み、細かい知識についても確認をしておこう。

第6問 赤血球に存在するタンパク質と血液型

ヒトのABO式血液型に関する知識を整理しよう。

問1は生物基礎の範囲の知識問題、問2と問3は問題文を正確に読み取ることで正解が得られる問題で、問1～問3の正答率は、それぞれ84.0%、52.2%、64.7%であった。

第7問 物質輸送

細胞膜を介した物質輸送に関する知識を再確認しておこう。

問1は物質輸送に関する知識問題、問2は細菌の炭酸同化に関する知識問題、問3は実験考察問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ90.0%、64.5%、44.3%であった。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識に抜けがないか確認しよう。

センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。もう一度、教科書の用語やグラフなど基本的な内容をしっかりと理解

し、正確な知識を身につけているか確認しよう。今回の結果を受けて、知識が身につけていない分野については、教科書などで確認をしておこう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさん問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。ぜひ、今まで受験した模試や過去問の復習をして本番をむかえよう。